

保護者向け

11月号

校長室だより

令和7年10月31日
座間市立相武台東小学校
校長 柏木 直樹

晩秋となり、いよいよ秋から冬に変わる時期となりました。近年は、10月に夏日となることも珍しくなくなり、秋の季節を十分に楽しむ間もなく過ぎてしまっているように感じます。これまで、四季それぞれの特色が日本人の暮らしと心の豊かさに影響を与えてきたことを考えると、今後、季節感が失われていくことが心配になります。学校では、学習や行事、給食等で季節感を取り入れた内容を扱う中で、季節を大切にする気持ちと共に、子供たちの感性や情緒も育んでいきたいと考えています。



4年連合音楽会

10月1日（水）、相武台東小・相模野小・相模が丘小の3校による音楽会が、相模野小学校で開催されました。

全員合唱の「音楽のおくりもの」や各校の校歌も聴きごたえがありましたが、特に各校の合唱では、それぞれの学校らしさや子供たちの個性が存分に表れていて、心に残る演奏となりました。

2番手に登場した相東小の子供たちの合唱曲は、手話を取り入れた「365日の紙飛行機」でした。当日本番の歌声は、保護者や全校児童の前で歌った前日の朝会の時よりも素晴らしい歌声でした。（本番の歌声を聴いてもらいたかったです！）



歌詞の中の「その距離を競うより、どう飛んだか どこを飛んだのか それが一番大切なんだ」という一節が、4年生の子供たちが日頃の学校生活で見せている姿と重なりました。挨拶や返事がしっかりできるだけでなく、様々な行事での活動に対して、その目的や意味など、大切なことをしっかりと理解している子供たちだからこそ、その歌声には心を打つ力があり、聴く人の胸に深く響くのだと思います。

これからも4年生の子供たちが、自分らしい「飛び方」を見つけながら、一つ一つの経験を大切に積み重ねていく姿を楽しみにしています。

6年修学旅行

10月10日（金）・11日（土）の二日間、6年生は日光修学旅行に出かけました。

初日は、到着が予定より遅れてしまいましたが、富士屋観光センターでの昼食や東照宮の見学では、マナーを守りつつ、てきぱきと行動することで遅れを取り戻していました。東照宮では、三猿・眠り猫・鳴き龍・陽明門などを見学し、歴史ある建造物に触れる貴重な時間となりました。その後、第二いろは坂を上り、戦場ヶ原では男体山を背景に学年写真を撮影。湯滝の見学を経て、奥日光湯元温泉「ホテル山月」に到着しました。ホテルでは、クラスごとに買い物や足湯、お風呂を楽しみ、夕食後には伝統工芸「ふくべ細工」の体験も行い、一日目を締めくくりました。

二日目は、濃霧の影響で「華厳の滝」の見学は叶いませんでしたが、日光江戸村でのグループ活動に気持ちを切り替え、事前に立てた計画をもとに行動しました。芝居を見たり、体験を通して昔の文化を学んだりと、仲間と協力しながら楽しく過ごす姿が印象的でした。また、ミール券や小遣いを使って昼食やお土産選びをするなど、自由な時間を満喫していました。

今回の修学旅行の目標は、「メリハリをつけ、礼儀正しく行動し、みんなで思い出に残る最輝の修学旅行にしよう！！」でした。その言葉通り、東照宮の案内人からは説明を聞く姿勢を、ホテルの方からは挨拶や礼儀正しさを褒めていただきました。江戸村でのグループ行動では、仲間を思いやり、協力しながら行動する微笑ましい場面も多く見られました。

この修学旅行を通して、仲間との絆がより深まり、学年としての力がより高まつたのではないかと感じています。現在は、深まつた絆と高まつた学年力を活かして運動会に向けて全力で取り組んでいます。残り少なくなってきた小学校生活を仲間とともに支え合いながら、最後まで成長し続けてほしいと願っています。

